

2024年 前・後期 授業改善アンケート

科目開設部門別集計結果（キャリアセンター）に対するコメント

キャリアセンター長

中田 真佐男

キャリアセンターが開講している全学共通教育科目では14科目が授業改善アンケートの実施対象科目となっていますが、このうち12科目（内訳は実施必須科目では対象の5科目の全て、実施任意科目では対象の9科目のうち7科目）でアンケートが実施されました。この12科目の延べ履修者数411名の73.7%にあたる303名から回答を得ており、大学全体（57.0%）と比べて高い回答率となっています。

・用いられた授業手法

用いられた授業手法に関する設問では、キャリアセンター開講科目の回答率は「グループワーク」で80.5%（大学全体は17.7%）、「ディスカッション」で52.1%（大学全体は10.2%）、「プレゼンテーション」で51.5%（大学全体は10.8%）、「学生によるコメントペーパー」で46.2%（大学全体は24.3%）、「問題解決型授業」で21.5%（大学全体は1.8%）と高くなっていることが特徴的です。こうした回答結果から判断する限り、キャリアセンターが開講している全学共通教育科目では、学生の反応をリアルタイムで確認しながら、思考力や協働スキルを高めるアクティブな授業が行われていると言えます。

・授業を通じて身についた資質・能力

授業を通じて身についた資質・能力に関する設問では、キャリアセンター開講科目の回答率は「コミュニケーション能力」で69.3%（大学全体は10.9%）、「協働力」で44.6%（大学全体は5.1%）、「プレゼンテーション能力」で43.9%（大学全体は7.0%）、「柔軟な発想力」で43.6%（大学全体は9.9%）、「人脈形成力」で37.6%（大学全体は2.2%）、「課題解決力」で36.3%（大学全体は6.9%）、「課題発見力」で35.0%（大学全体は8.5%）、「構想力」で32.0%（大学全体は9.9%）と高くなっています。こうした回答から、キャリアセンターが開講している全学共通教育科目での学びを通じ、キャリアの選択肢を拡げ、さらに選んだキャリアで自らが成長・活躍していくうえで必要な資質・能力を学生が身につけられて

いることがうかがえます。

なお、当該分野の「知識・学力」が身についたと回答した学生の割合は59.4%であり、大学全体の回答率(83.8%)を下まわっています。これは、キャリアセンターが開講している全学共通教育科目では、既に習得した知識を実践的に活用することをねらいとした授業が中心になっているためだと考えられますが、従来から有するキャリアセンター開講科目の「強み」に加え、今後は「知識の習得」にも配慮した授業方法を検討・実践していくことでさらなる改善が図れるものと思われまます。

・授業に対する評価

授業全体の評価を示す項目14「この授業は総合的に判断して自分にとって有意義だった」は4.72でした(大学全体では4.37)。2023年度は4.71、2022年度は4.70であり、安定的に学生から高い評価を得ていると言えます。設問13「この授業のレベルは適切であった」の評価も4.56と高いこともふまえると、こうした高い評価には、適切なレベル設定のもと、「(用いられた授業手法」で言及した)効果的な手法を用いた授業で、「(授業を通じて身についた資質・能力」で言及した)今後のキャリア形成に不可欠な資質・能力を習得できているという履修学生の大きな満足感が反映されているものと考えます。

授業改善アンケートの回答結果から、キャリアセンターが開講している全学共通教育科目は、大学のディプロマポリシーに掲げられた思考力・判断力・表現力・主体性・協働性などを学生が高めていくことに寄与していると判断できます。

ただ、授業評価の上記項目14と項目12「この分野への興味・関心が引き起こされた」の回答の相関係数が2024年度は0.60となっており、2023年度の0.73から低下していることには注意を要します。キャリアセンター内で要因を探り、さらなる改善につなげていくことが必要だと考えます。